

早期米 出穂から収穫期管理

～収穫までの水管理・病害虫防除を徹底しよう！！～

1. 生育状況

本年の早期米は、田植時期から田植後の気温おおむね平年並み、日照時間は多い為、活着も良好で、現在は茎数も十分確保できており順調に生育が進んでいます。コシヒカリの出穂については、早い圃場で7月中旬頃からの出穂となり、生育速度は平年並みとなっています。生育時期に合わせた管理を徹底しましょう。

今後は収穫までの水管理が収量・品質に影響を与えるため、適切な水管理を心がけましょう。

2. 水管理

穂揃い期後の水管理は間断灌水が基本になりますが、中干しが十分に出来ていない場合は、出穂後定期的に干しながら収穫までの水管理を行いましょう！気温が高くなっているため、水がある場所は夜間の入水を実施し、収穫7日前まで白乾させない。早期落水は収量減少・品質低下に大きく影響します。

また、台風が接近する時などの強風時は葉先の裂傷等を防ぐため、出来るだけ深水管理を行う！！

3. 病害虫防除

【いもち病】

曇雨天が続き、平均気温24度で発生が多くなります。病斑が見える圃場は必ず防除を行ってください。野菜跡など葉色が濃い圃場は要注意！！

「薬剤」 ワイドナーエース粉剤 DL	「使用量」 3～4kg/反
または「薬剤」 ノンブラスフロアブル	「使用量」 1000倍 100ℓ/反
特栽米「薬剤」 トライフロアブル	「使用量」 1000倍 100ℓ/反

【紋枯病】

毎年、紋枯病が発生している圃場では、今年も発生しますので必ず防除を行いましょう。また今後、気温が上昇すれば紋枯病発生の被害が拡大しますので、現在発生していない圃場でも注意が必要です。

「薬剤」 ワイドナーエース粉剤 DL	「使用量」 3～4kg/反
または「薬剤」 バリダシン液剤	「使用量」 1000倍 100ℓ/反

【カメムシ・ウンカ】

毎年発生しているカメムシですが、今年も多発しています。近年、不稔粒、品質低下の原因となっており、必ず下記の通り防除を徹底しましょう。

①雑草の穂が出穂する前に畦畔の草刈りを行うことが重要。

②出穂期頃に

エクシード粉剤3kg/反 または エクシードフロアブル2000倍/反を使用し防除しましょう。

※ 農薬散布の際は、使用基準を遵守し周辺作物へ飛散がないよう注意してください。

※ 栽培履歴の記帳を忘れずに収穫前に必ず提出しましょう！！